



令和7年度第1回三浦半島地区保健医療福祉推進会議

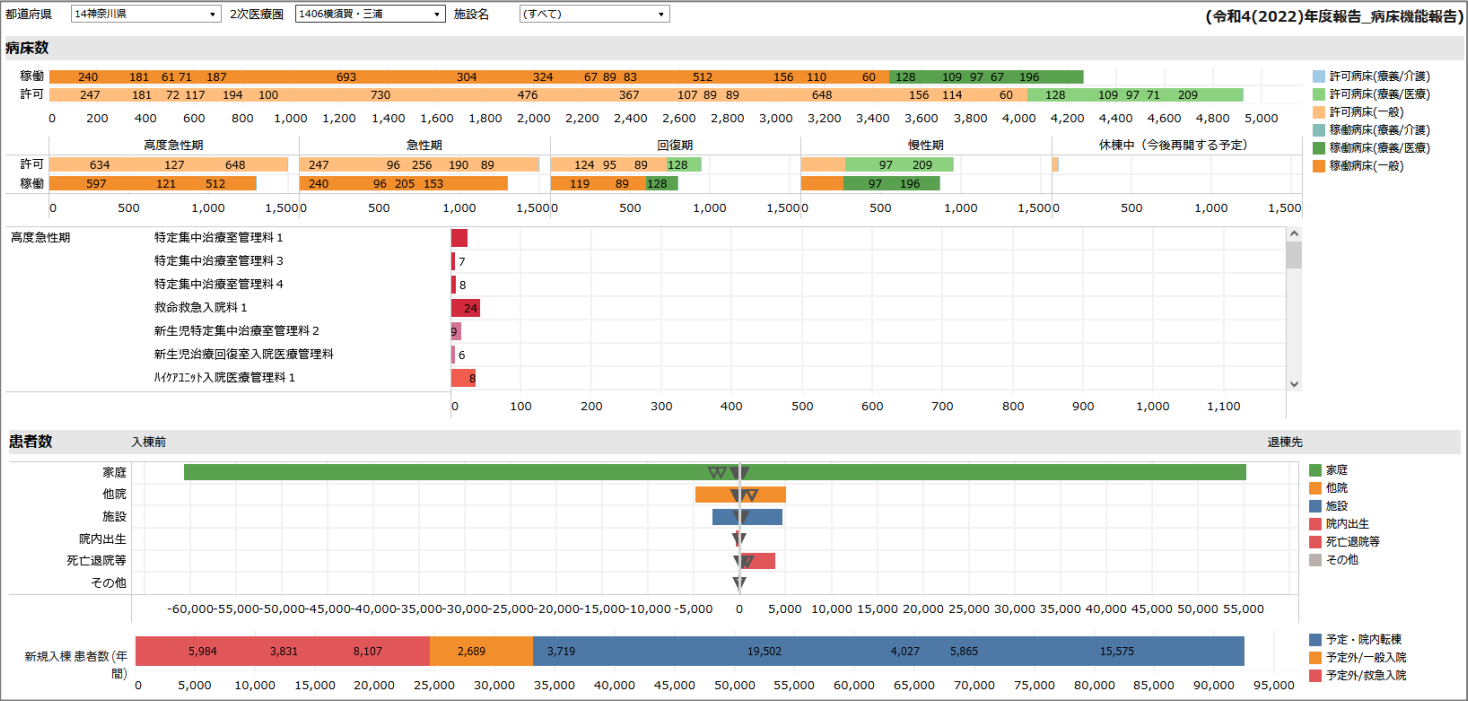
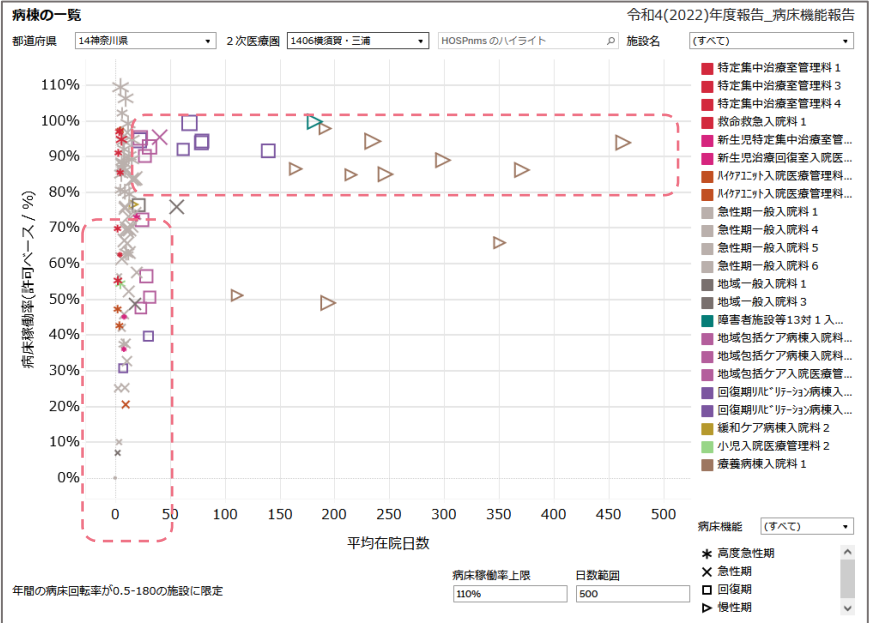
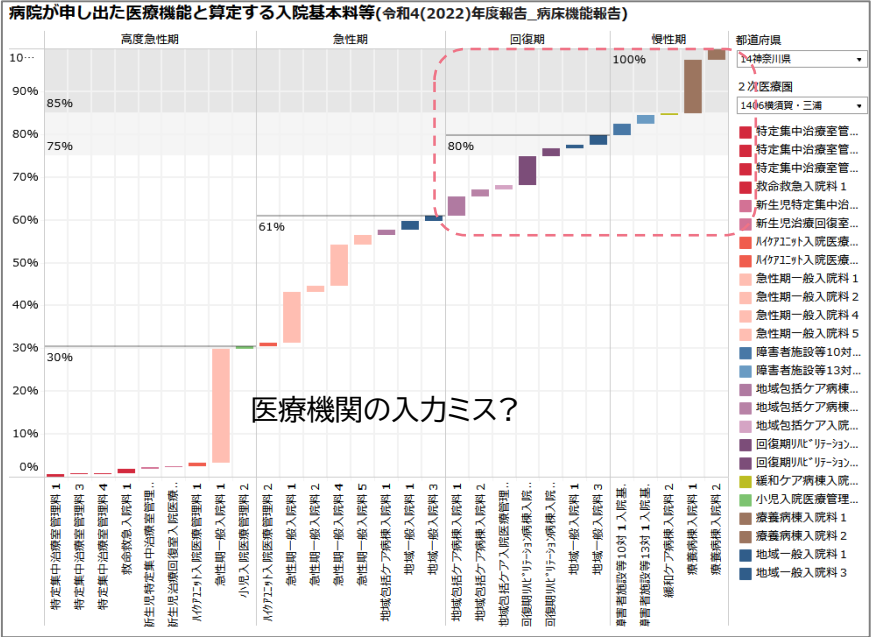
資料6

データ分析結果から見えてくる地域の状況・特徴等について

横浜市立大学 医学群データサイエンス研究科
ヘルスデータサイエンス専攻 講師 清水 沙友里

横須賀・三浦の地域の状況

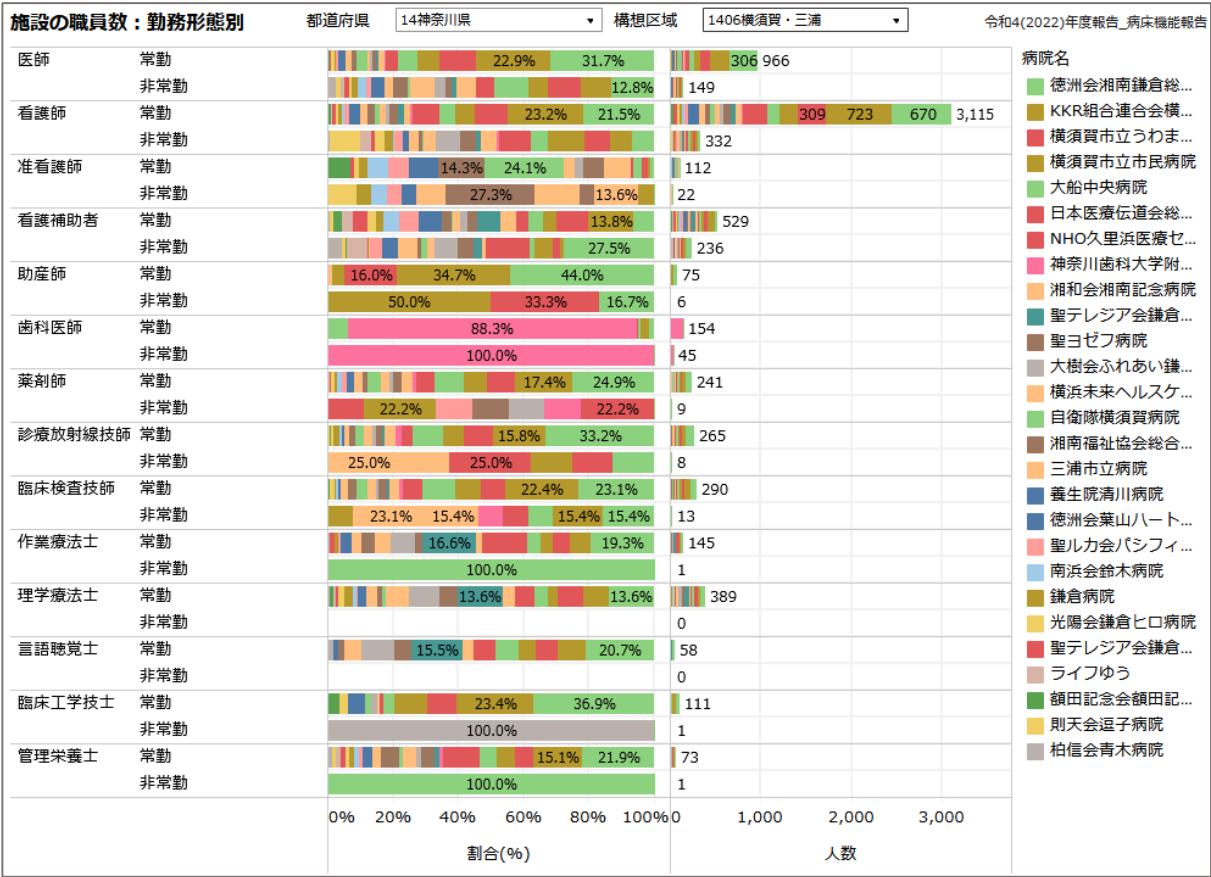
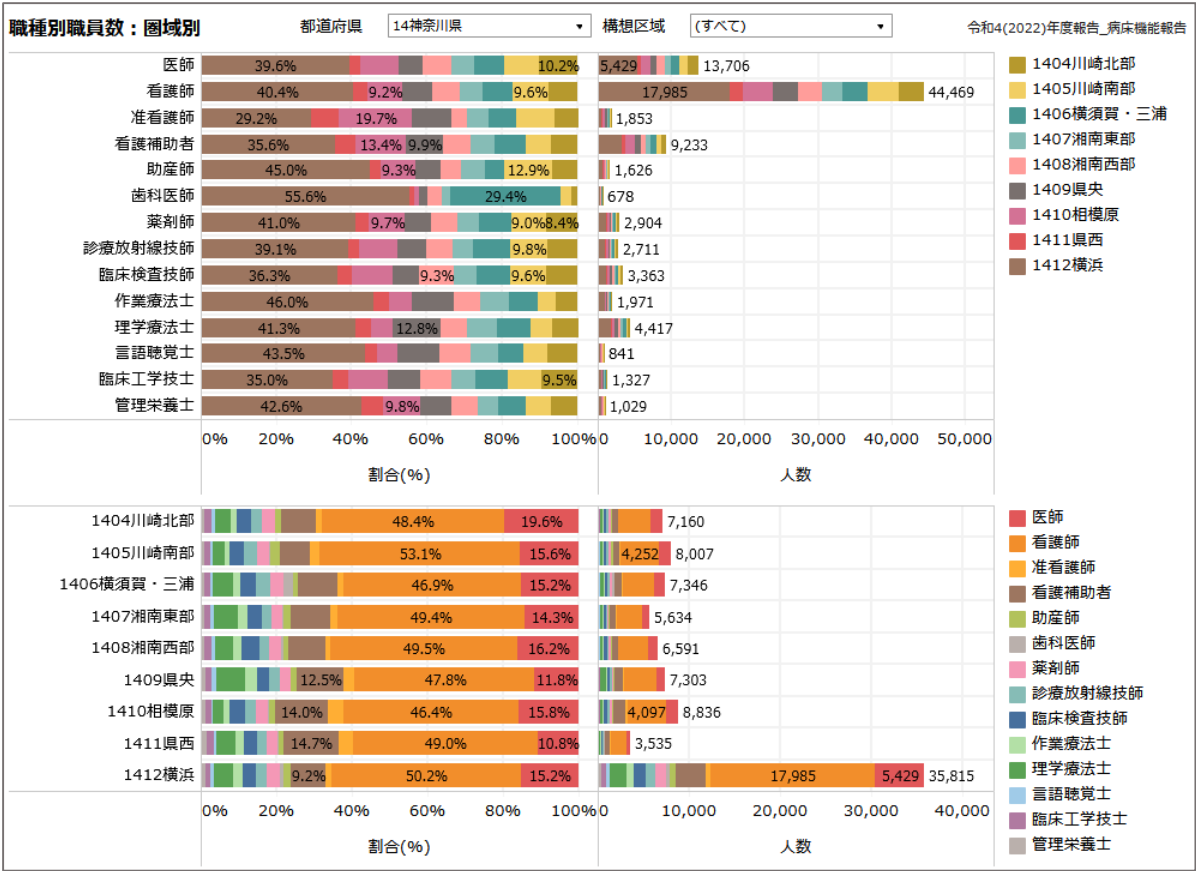
横須賀・三浦 医療機能の状況



- 2040年に向けて総人口の減少が大きい。75歳以上人口が0.92倍、生産年齢人口が0.78倍となるため、高齢者も働き手も総数が減少する地方型の地域。大幅に減少する生産年齢人口で、高齢者の医療を支える必要がある
- R4年の構想区域における回復期・慢性期の病床は、病床全体の約39%
- 急性期、回復期、慢性期ともに休床が見られる、働き手の減少が見込まれることから、急性期における傷病ごとの患者推移を見ながら医療機関の集約化を検討
- 地域の高齢者割合が高いことから、予定外/救急医療入院の割合が高く、施設への退院が多い。高齢者の在宅管理や急性期医療機関との連携が課題

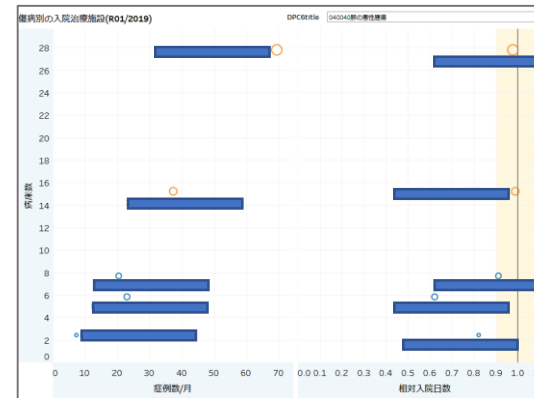
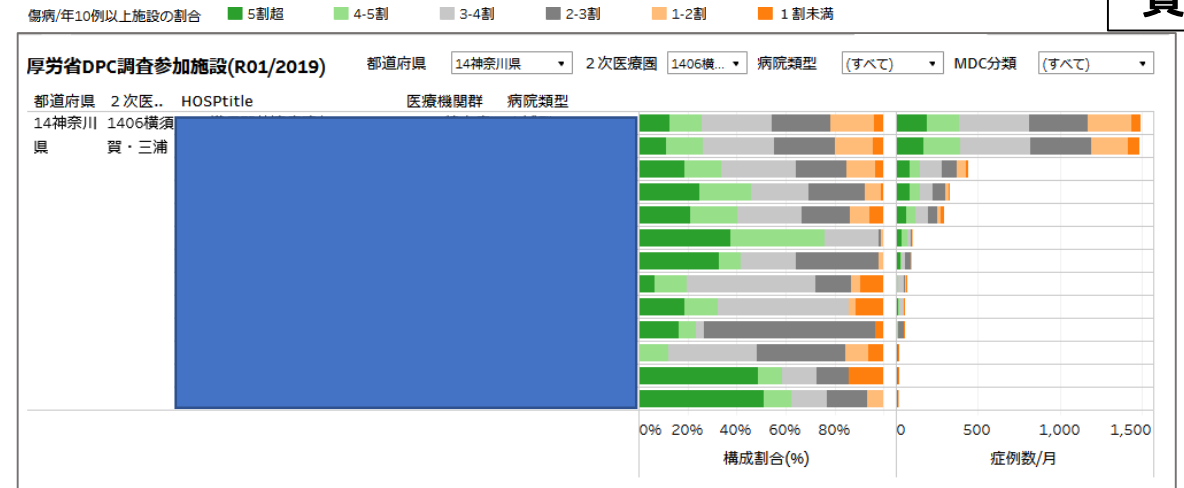
横須賀・三浦 医療従事者の状況(病床のある医療機関)

資料6



- 横須賀・三浦は医療従事者のうち医師が15.2%を占めている、非常勤割合は13.4%
- 看護師が46.9%と最も他の地域と比較し低い
- 看護師は常勤3,115名、非常勤332名で非常勤割合は9.6%、准看護師常勤112名、非常勤22名
- 作業療法士146名、理学療法士389名、言語聴覚士58名とリハビリスタッフは計8.1%

資料6



横須賀・三浦は、大学病院本院群なし、DPC特定病院群2、DPC標準病院群が6病院、DPC以外(準備病院/出来高)が5病院で構成
月間1500症例程度の入院を扱う2病院、300-500症例が3病院、その他と分かれています

肺の悪性腫瘍は、5病院が実施、うちA病院が占有率44.1%、次いでB病院が23.7%、C病院が14.6%を占める

強みを持つ診療科や手術実施状況など、個々の医療機関の専門範囲と実際の症例数を可視化

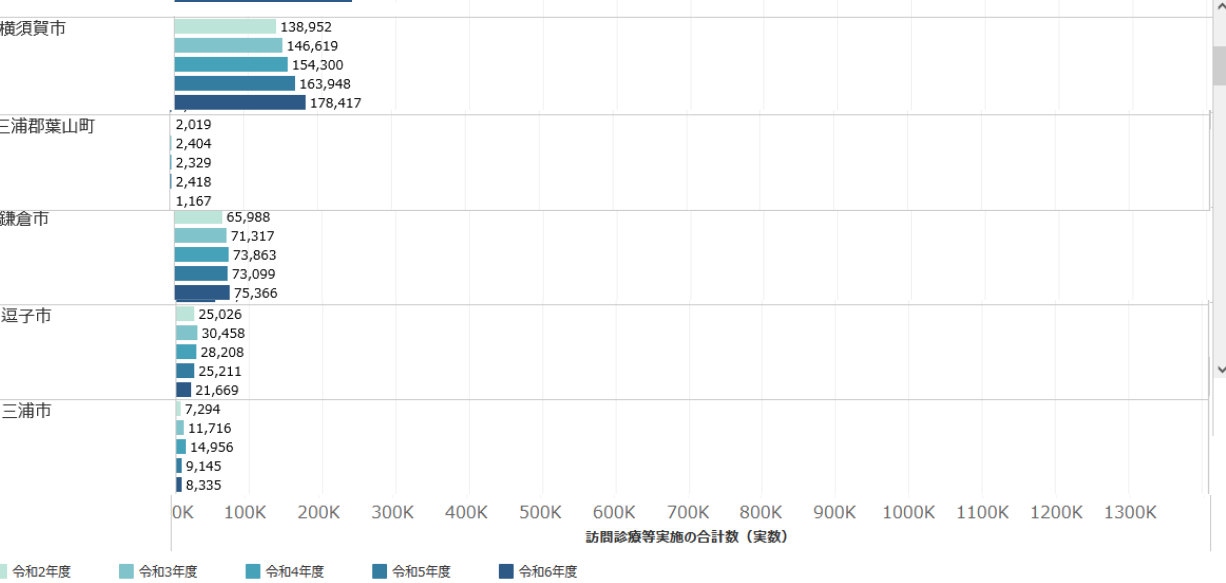
横須賀・三浦(横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町) 直近1年に在宅療養を担当した合計診療患者数

資料6

年度 令和2年度
表示指標切り替え 実数

訪問診療等実施の合計数（実数）	
横須賀市	138,952
平塚市	60,202
鎌倉市	65,988
藤沢市	167,195

年度 (すべて)

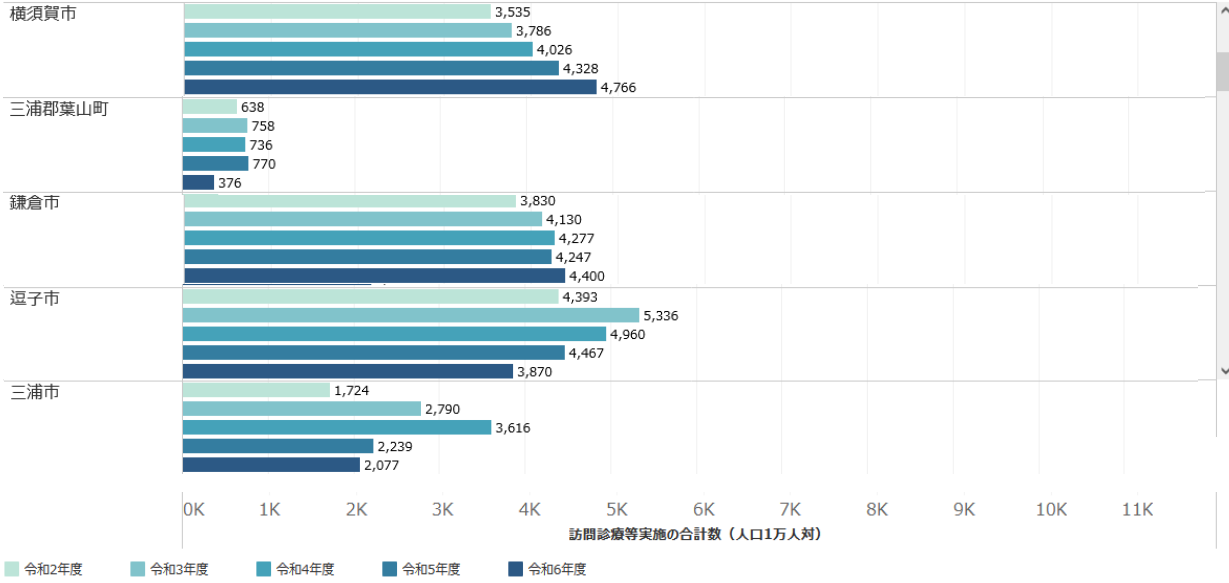


実数

年度 令和2年度
表示指標切り替え 人口1万人対

訪問診療等実施の合計数（人口1万人対）	
横須賀市	3,535
平塚市	2,336
鎌倉市	3,830
藤沢市	3,846

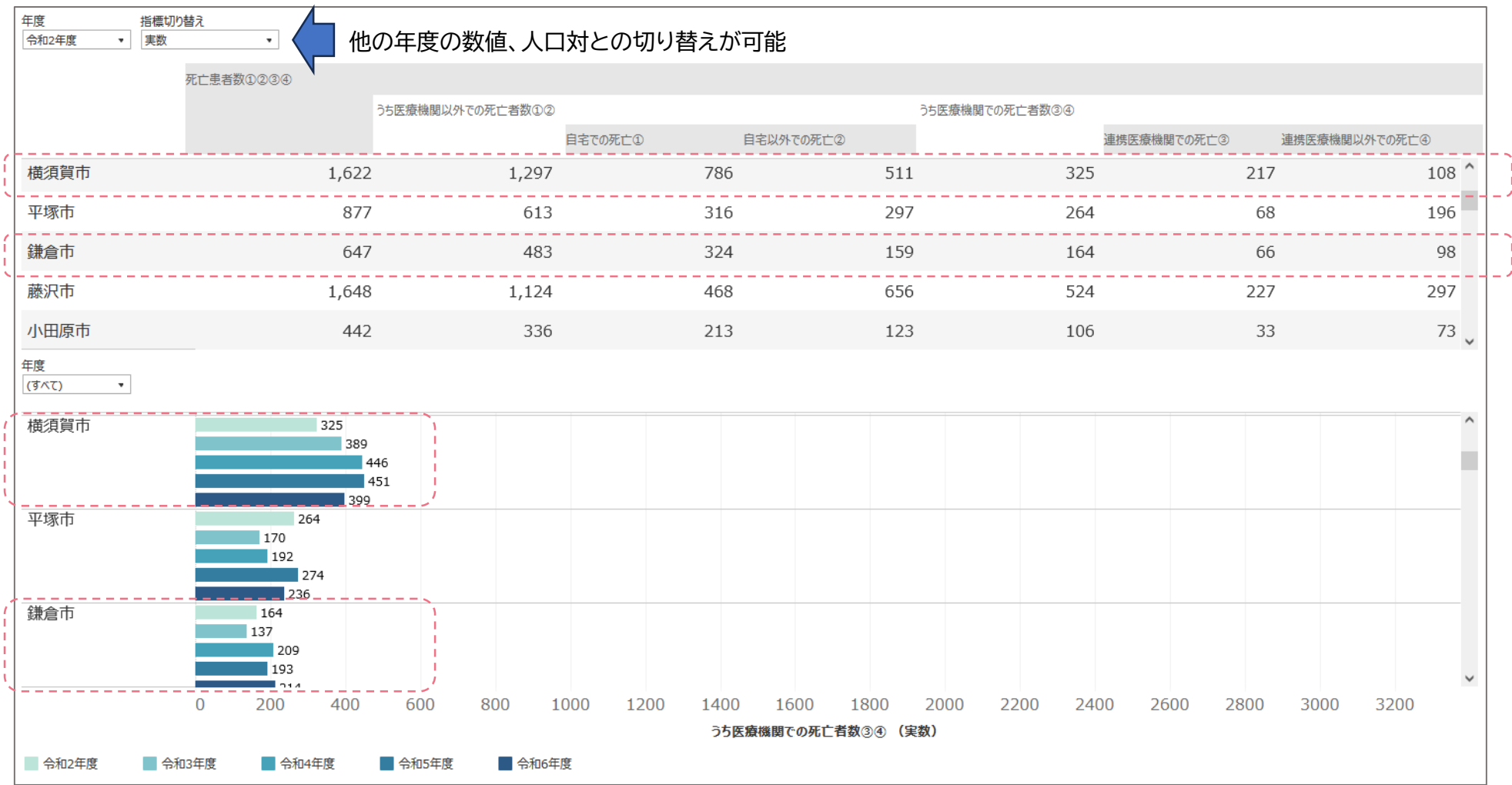
年度 (すべて)



人口1万人対

- 在支診および在支病が直近1年に在宅療養を担当した合計診療患者数
- 横須賀市、鎌倉市では合計患者数が増加、葉山町、逗子市、三浦市ではR6年で減少傾向にある

横須賀・三浦（横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町） 直近1年に在宅療養を担当した患者のうち死亡者数(看取り)



- R2年に横須賀市で在宅療養を行った患者のうち、死亡したのは1、622件、うち在宅での死亡は786件(48.5%)、自宅以外の施設等での死亡が511件(31.5%)、医療機関での死亡は325件(20.0%)、うち連携医療機関での死亡は217件(13.4%)
- 横須賀・三浦における医療機関以外(自宅・施設等)での死亡はR2年の78.7%からR3年に80.3%まで上昇したが、以降は微減

横須賀・三浦の地域の状況

- 2040年に向けて総人口の減少が大きい 75歳以上人口が0.92倍、生産年齢人口が0.78倍となる※
- 大幅に減少する生産年齢人口で、高齢者の医療需要に対応する必要がある※
- R4年の構想区域における回復期・慢性期の病床は、病床全体の約39%、地域の病床のうち30%を占める高度急性期・急性期の持続可能性が課題(P2)
- ほぼ同数の医療従事者数の県央と比較し、医師の割合が多い(P3)
- 急性期の入院医療においては、月間の症例数で大きく3つの群にわかれる(P4)
- R2年からR5年にかけて、支援診1・2が増加、支援診3は減少、人口規模を鑑みると、他の地域と比較し、支援病3がR5で6施設と比較的充実(P5データより再集計)
- 75歳人口あたりの在宅医療患者数(在支診)は神奈川県内で比較的高いが、増加幅は少ない。1万人対患者数は地域でばらつきがみられる(P5)
- 支援診では、自宅・施設等での死亡割合は比較的高い。在支診の患者では、施設により自宅・施設での看取り割合のばらつきが少なく、自宅等でのお看取りがなされている傾向(P6,P6データより再集計)

※人口関係データは神奈川県『神奈川県将来人口推計・将来世帯推計』による

※在宅医療関連データはtableauでは市別で表示していることから、一部構想区域別に再集計したデータを参考値として提示